

## 総務文教常任委員会視察報告

委員長 金井登美雄

総務文教常任委員会では、令和5年10月3日から5日の日程で愛知県大府市・岡山県笠岡市を視察しました。

大府市では、「DAIWA防災学習センター」にて防災学習や防災意識の向上について視察しました。この施設は、平成12年の東海豪雨被害を教訓に、全国的にも珍しい「冠水道路歩行体験」などが設けられています。本市と同様に防災士資格取得の助成制度も整備されていました。本市では、施設整備は難しいですが、防災用品の展示等、防災意識の啓発における施策として多くの学びがありました。

笠岡市では、移住定住政策について視察しました。かねてより移住定住政策に取り組み、平成21年に定住促進センターを新設し、全庁的な施策展開を行っていました。多様な支援策を講じ、空き家バンクの成約件数が岡山県でトップという成果も出しているとのことでした。また、近年では、空き家のVR内覧などの先進的な取り組みもはじめています。本市においても、全庁的な取り組み体制の構築や、空き家のVR内覧なども取り入れられそうであると感じました。



## 福祉民生常任委員会視察報告

委員長 松本 次男

令和5年10月23日から25日の日程で、岡山県総社市で「ヤングケアラー支援」を、鳥取県倉吉市で「病児・病後児保育」の行政視察を行いました。

総社市では、ヤングケアラーの孤立ゼロ実現に向け、市内小中学校で実施したアンケート調査の結果を基に、個別ケース会議で児童生徒の状況を分析。相談窓口の設置やコーディネート配置などにより、地域や関係機関と連携しヤングケアラーの子どもとその家族に必要な支援を行っています。また、令和3年9月に総社市ケアラー支援の推進に関する条例を制定。本市における具体的な体制づくりの重要性を痛感しました。

倉吉市は、1市4町で構成する鳥取県中部定住自立圏の中心市として、各町単独で実施が困難な病児・病後児保育を圏域で連携し行っています。病児保育施設「きらきら園」は社会福祉法人へ委託し県立厚生病院内専用室で、病後児保育施設「すくすく園」は医療法人へ委託して事業を行っています。施設見学をはじめ、事業の運営状況や予算、推進上の課題などを学ぶことで、本市での同事業の取り組みに向け大変参考になりました。

